

人権だより

(令和8年度 6月号)

川之石高校人権委員会 担当 3年次2組

1学期人権・同和教育ホームルーム活動が6月12日(金)6限目に実施されました。各年次のテーマに沿って学び、意見交換を行ったり考えを深めたりしました。今回の活動で学んだことを、それぞれの家庭でも話題にして、人権についてみんなで一緒に考えていきましょう。

【2年次のテーマ】 解放への歩みⅠ ～部落差別の起こり～

〈2年次 人権委員〉

- ・普通、一揆では武器を使ったりするけど、渋染一揆では暴力を使わず、話し合いを通じて自分たちの願いをかなえていてすごいなと思った。差別をなくすには、住んでいる場所ではなくその人を見ることが大事。
- ・差別された人たちの職業や暮らし、渋染一揆が成功したことなどについて学びました。部落差別についてもっと知り、正しい知識を身に付け、人にも伝えていきたい。
- ・差別が生まれた理由として、人々のおそれと特別視があるのだと知りました。昔は職業によって差別されることがあったんだと知りました。人権問題の解消には、偏見を持たないようにすることと、差別についてもっと詳しく知る必要があると思いました。
- ・差別は、もともと尊敬されていた動物や人の死骸に関わる仕事をしていた人を、他の人がおそれを抱くようになったことでできたということが驚きで、印象に残っています。互いが好きで「結婚したい」と思っていたのに、親の意見で結婚をやめたということが疑問に感じます。

○家庭での意見や感想

- ・住んでいる場所に先入観を持つのではなく、その人個人を見ることが大事。
- ・差別は減ってはいるけれど無くなっていないことを理解し、誤った情報をうのみにしないことが大切であると思う。
- ・差別をしないようにしようと口では簡単に言えるけど、行動できる人は少ないから行動できる人になる努力をしないと差別はなくなることはないと思う。



【3年次のテーマ】 解放への取組Ⅰ ～公正な採用選考に向けて～



〈3年次 人権委員〉

- ・昔は就職差別につながる質問や履歴書に答えるのがあたりまえだったのが驚きだし、今でも、緊張をほぐすためにということで（家族のことなど）差別につながおそれのある質問をされるかもしれないので、実際されたら答えてしまいそうで怖いと思った。尊敬する人物は答えてはいけないことを初めて知った。面接のときにちゃんとした答え方で対応したい。
- ・家族のことや出身のことなど就職差別につながるおそれのある質問は答えなくてもいいということが最も印象に残りました。差別をなくすには、就職差別についてより深く理解して、答えなくてもいい質問をしっかりと見極めて対応できるようにすることが大切。
- ・面接時に本人の責任ではないことを質問してくること、そういう差別がまだ完全に消えていないという事実、今は少なくなったけど昔はいっぱいあったことが印象に残っています。ネットなどで誹謗中傷を書き込まない、相手を尊重する、見て見ぬふりをしないことを実践したい。
- ・会社に就職するための応募用紙は会社側が用意していると思っていたが、今ではすべて統一されていると知って驚きました。どのような部分が差別に当たるかを予想したとき、「そんなこともダメなの!？」と思う内容もあって衝撃でした。差別的なことを見たら止め、されたら周りの人たちに相談したい。

○家庭での意見や感想

- ・就職差別について考える機会ができてよかった。実際に面接する際の参考になった。直面した時への対応を知れたのもよかった。
- ・就職差別はあってはならない。生まれた場所や家庭環境などで判断されるべきではない。
- ・ネットへの書き込みは完全に消すことができないので、十分に理解して携帯電話を使ってほしいと思う。家庭で就職差別などの人権問題を話す機会があまりないので、こういうきっかけがあるのがよいなと思いました。